

■ 新南陽総合支所整備事業の概要について

【住民説明会】

1 新南陽総合支所の整備に関する基本的方針

(1) 基本方針

現行の所管区域、機能及び規模を維持することを基本に、区域内における総合的な行政サービスの提供を行う地域の拠点施設として、また災害発生時には地域の安心安全を守る防災拠点として、当該サービスを効率的に提供可能なコンパクトで機能的な行政事務所を整備する。

(2) 位置 旧新南陽総合支所敷地内

2 整備スケジュール

《令和8年度中の完成》



【見直し】

《令和6年度中の完成》

R2年度	区分	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
・住民説明 ↓ ・整備方針決定 ↓ ・庁舎の建設位置、規模等の決定	整備図③ 庁舎整備				
	シルバー事務所解体	解体工事			
	用地造成	造成設計	造成工事		
	庁舎建設	地質調査			
		基本・実施設計			
			建設工事		
	整備図① 防災倉庫・駐車場の整備				
	西消防署解体	解体設計	解体工事		
	駐車場等整備		設計	舗装等工事	
	防災倉庫建設				建設工事
	市道整備 (道路課予算)		市道工事	信号移設	

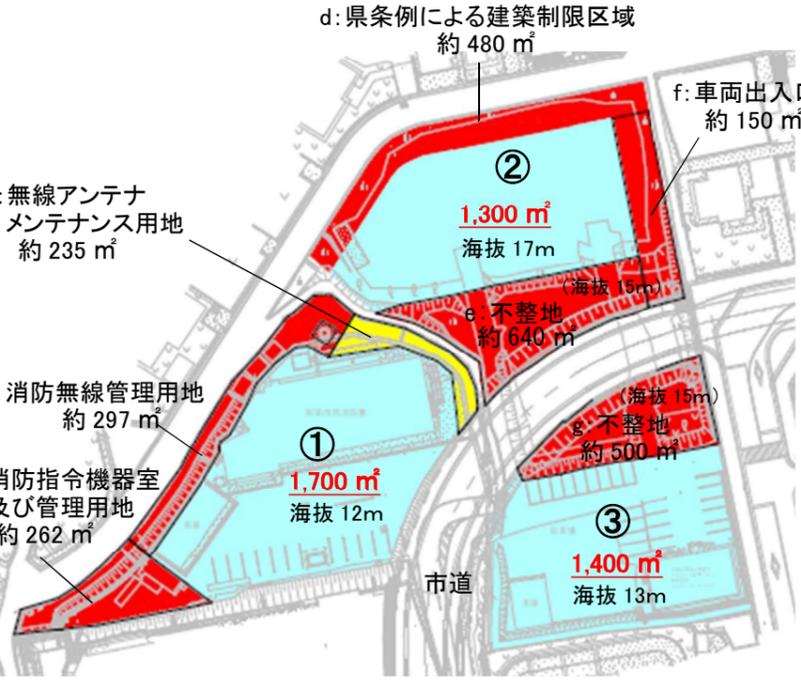
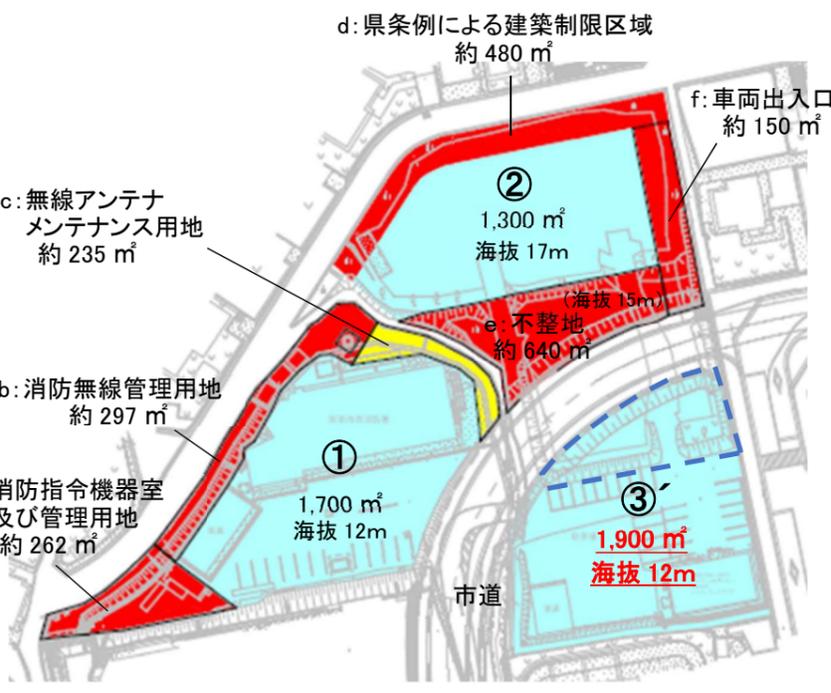
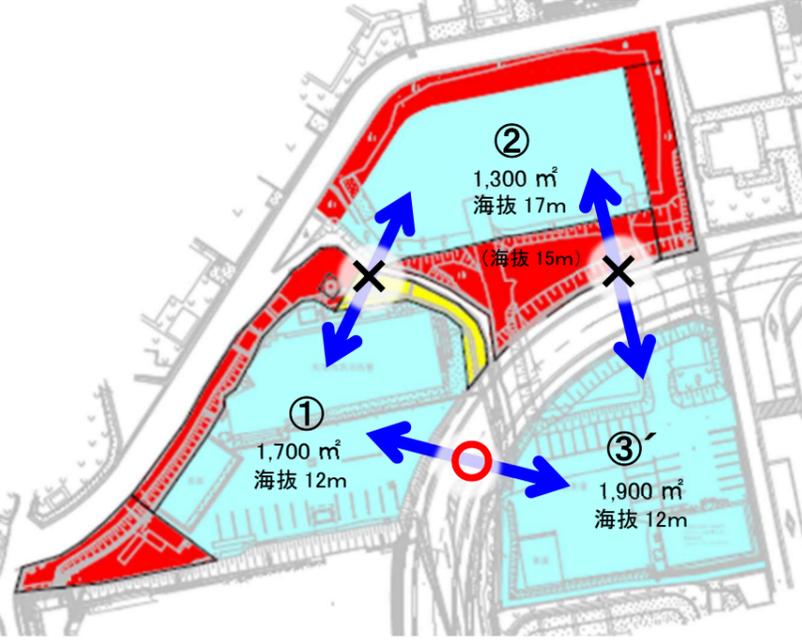
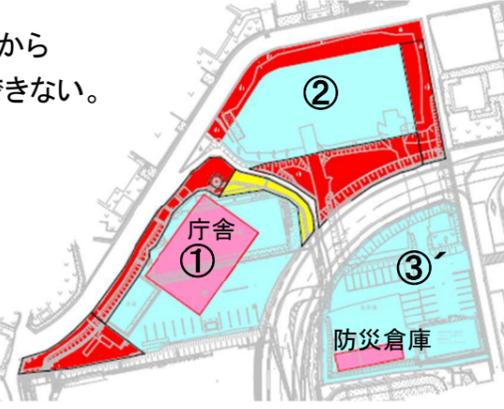
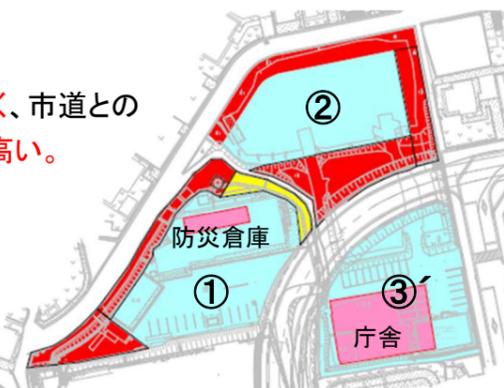
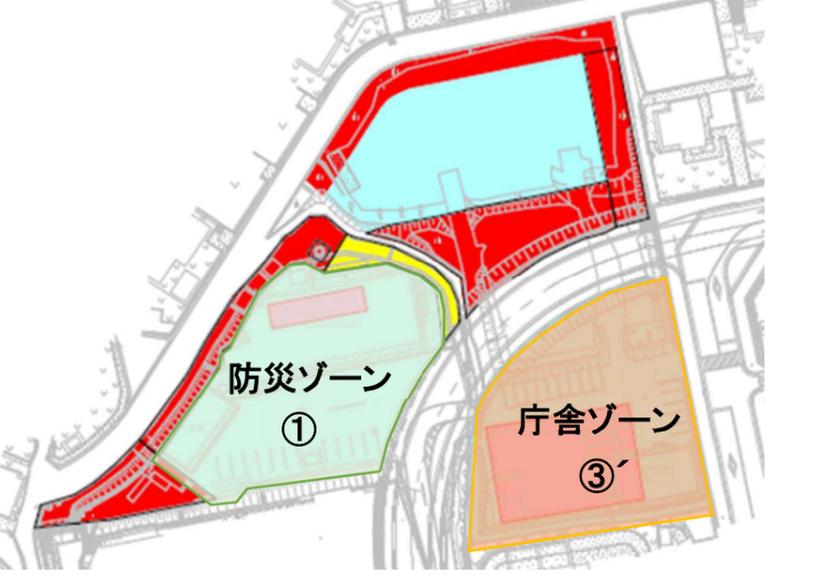


(2) 位置 旧新南陽総合支所敷地内 (整備図③に庁舎、来庁者用駐車場①に防災倉庫、臨時駐車場を整備)

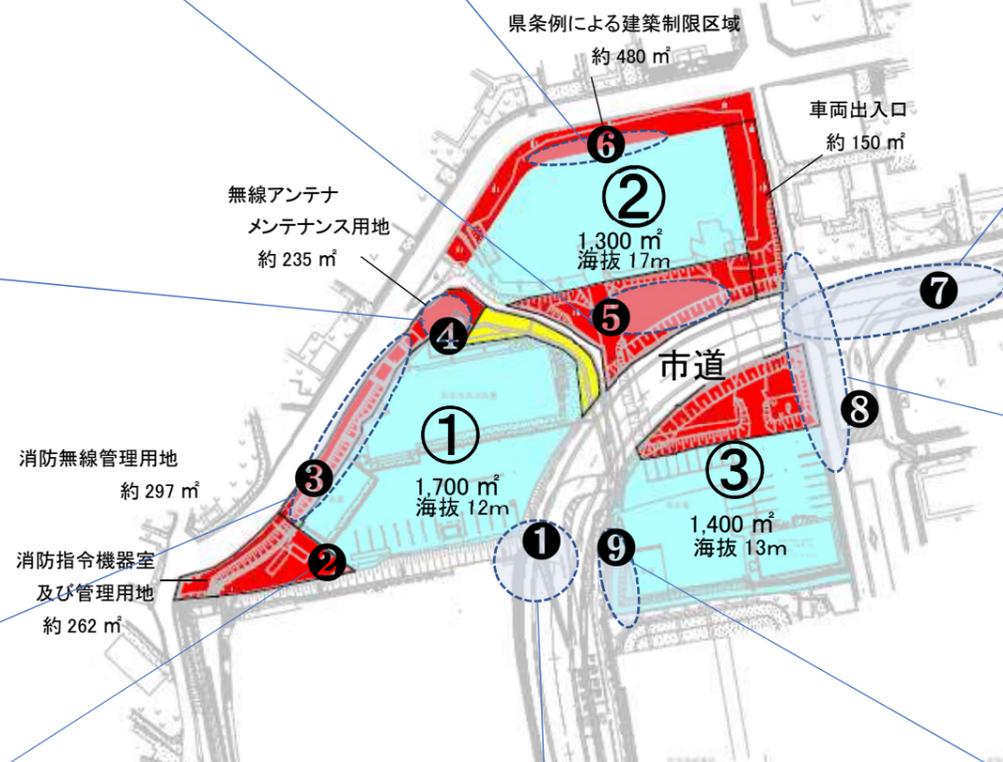
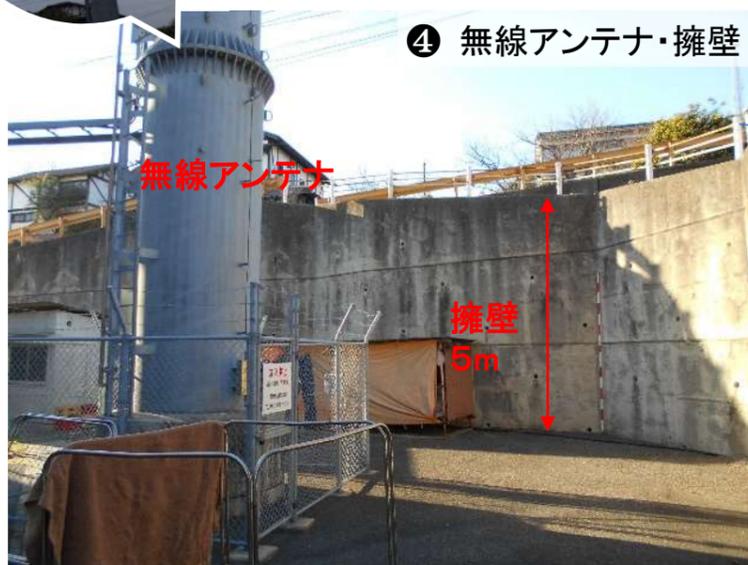
※市道 海拔 a:13m b:11m c:7m

(3) 規模 約1,000 m² (庁舎: 約900 m²、防災倉庫: 約100 m²)

■新南陽総合支所建設位置の検討概要 ※設定【1】庁舎の規模:約1,000㎡(新庁舎:約900㎡、防災倉庫:約100㎡) 【2】駐車場の規模:約2,400㎡(60台(内来庁者用25台)×40㎡)

1 現況敷地面積	2 利用可能敷地面積	3 敷地の造成
		<p>・①は造成は困難であり、②は造成により利便性が低下する。 ・③は市道に合わせて1～3m地盤を下げることにより1枚の土地となり、利用可能面積が増加し、造成効果が高い。 ⇒造成後の候補地を③'とする。</p> 
4 敷地の併用等	5 配置・立地	6 建設位置及び配置計画
<p>・建物や駐車場の規模から単独候補地では全ての整備はできない。 ⇒移動の利便性等から①と③'の併用が最適である。 ・建物規模から、敷地内に来庁者用駐車場を確保するためには庁舎は2階建とする。(1階を約600㎡と想定)</p> 	<p><u>①に庁舎を建設した場合</u> ・利用制限区域があることから十分な駐車台数を確保できない。</p>  <p><u>③'に庁舎を建設した場合</u> ・駐車台数が確保できる。 ・バス停、県道から最も近く、市道との出入口設置の自由度が高い。</p> 	<p>・庁舎、来庁者駐車場を敷地③'に建設する。 ・防災倉庫、臨時駐車場を敷地①に建設する。 ・③'は庁舎ゾーン、①は防災拠点ゾーンと位置付け整備する。</p> 

■ 現況写真



② 消毒室→消防指令機器室

